



明達館高等学校
共育コーディネーター 南雲 明彦 氏

ミニレター

「子どもの理解研修Ⅰ（LDの理解と対応）」より

- ◆1ページ
 - ・研修紹介
「子どもの理解研修Ⅰ（LDの理解と対応）」
 - ・学校紹介
（落合東幼稚園）
（落合東小学校）
- ◆2ページ
 - ・授業づくりシリーズ
学ぶ意欲が高まる授業を目指して
（小・中学校国語科編）

研修紹介

LDの理解と対応

平成27年10月号のミニレターでは、特別支援教育をすすめる上で大切なこととして、

①本人・保護者のニーズを聞く ②実現可能な支援の工夫 ③自立につながる支援 の3点をお伝えしています。

LD（学習障害）とは、基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態を指すものです。（文部科学省の定義より）

子どもの理解研修Ⅰ（LDの理解と対応）では、ご自身に「読み書きが苦手」という困難さがある南雲明彦氏を講師にお迎えし、体験をお話いただくことで、LDへの理解を深め、具体的な対応策について学びました。

《講師の体験より》

教科書を読む時、文字が揺れて見え、立って読むとどこを読んでいるのかわかりませんでした。座って読むと、揺れにくく、また定規を当てて辿って読むとどこを読んでいるのかわかりやすくなりました。当時、自分がLDだということはわかりませんでしたが、担任の先生は、僕に対して、「どうしてほしい？」と聞いてくれました。そして、できないから「やらなくていい」ではなく、やりやすいように配慮してくれました。また、読み書きができないから、他のことも「できないだろう」と決めつけず、学級代表などの役割を与えてくれ、僕に期待してくれたことが心に残っています。（※この「メイリオ」という書体は、講師の南雲氏が最も読みやすい書体です。人によって読みやすい書体は異なります。）

南雲氏の見え方のイメージ



講師の体験を通して、LDの状況は一人一人違うもので、子どもの心や状況に寄り添い、実態やニーズを把握した上での対応や、障害や診断名で「できない」と決めつけず、活躍の場を作り、成長を期待することの大切さについて教えてくださいました。

学校紹介

落合東小学区 幼小連携の取組

落合東幼稚園
落合東小学校

小学校に入学した子どもが自己を発揮し、主体的に学ぶには、幼・小の接続を滑らかにすることが重要です。落合東幼稚園と落合東小学校では、幼・小の滑らかな接続をめざし、以下の3つを柱とした取組を行っています。

- ①ペアやグループによるかかわりの継続性を意識して「子どもをつなぐ」
- ②計画的に研修会・協議会を開催して「組織をつなぐ」
- ③交流や学びの場の拡充を図り、年間を通じた「カリキュラム・事例でつなぐ」

その中から、平成27年度の年長幼児と第1学年児童による③の取組を紹介します。

10月 秋みつけ

年長：主に環境
1年：生活科



自然物を採集する中で、1年生を頼りにしたり、幼児をいたわったりするかわわりが見られました。

10月 ならべてあそぼう

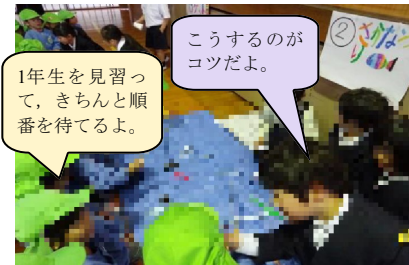
年長：主に表現
1年：図画工作科



「秋みつけ」と同じメンバーで作品を作ることで、1年生から学んだり、幼児に教えたりする等かわわりが深まりました。

11月 秋フェスタ

年長：主に人間関係
1年：生活科



継続的な取組により、幼児は1年生から多くのことを学び、児童は自然に幼児を楽しませるような活動を行っていました。

活動の連続性

成果

幼稚園

- ・幼稚園と小学校の学びにつながりをもたせることで無理なく交流でき、主体的な姿につながった。
- ・1年生の姿に影響を受けて、集団での約束やルールなど、自分で考えて行動することが増えてきた。

小学校

- ・交流に連続性をもたせることで、子どもの意欲が高まり、夢中になって取り組むことができた。
- ・幼児のために考えた遊びを楽しんでもらえ、相手を意識して考えることの大切さをより理解することができた。

～子どもの心に
火をつける～



学ぶ意欲が高まる授業を目指して

子どもたちの「学ぶ意欲」を高めるためには、学習過程の中の「導入場面」「課題認識場面」「課題解決場面」「振り返り場面」の中で、例えば「試行錯誤する活動」や「対話する活動」など、子どもが主体的になれる活動を仕組むことが重要です。

今回は、国語科において児童・生徒が主体的に「試行錯誤する活動」を行った小学校・中学校の実践を紹介します。

課題認識場面の工夫

多様な考えを引き出す学習課題との出会わせ方

中学校
国語科編

中学校第3学年「話すこと・聞くこと」の単元において、教科書では社会生活の中から話題を選び「相手や目的に応じたスピーチをしよう」という学習課題が示してあります。本単元では、課題認識場面で3つの工夫

中学校第3学年「社会との関わりを伝えよう」
＜三入中学校 中谷 麻美 教諭の実践＞

(①相手や目的の明確化 ②学習課題への条件の設定 ③効果的な資料の提示)を行いました。その結果、生徒一人一人の多様な考えを引き出し、主体的に試行錯誤させることができました。

①相手や目的の明確化

【相手】
校長先生及び5年後の自分達

【目的】
成人式の際に、録画をみんなで視聴する

②学習課題への条件の設定

多様な考えを引き出す条件
今年、自分に影響を与えたニュースベスト5を選んでスピーチしよう
試行錯誤をさせる条件

③効果的な資料の提示 【2016年のニュース一覧】

- 【1月のニュース 国内】
- 共産党、通常国会開会式に初の出席
 - スキーバス転落十四人死亡
 - 廃棄カプ横流し
 - 北海道新幹線で試乗会
 - 高浜原発3号機が再稼働

1	月	社会との関わりを伝えよう 私の2016年ニュースベスト5
共産党、通常国会開会式に初の出席	国内	三
スキーバス転落十四人死亡	国内	
廃棄カプ横流し	国内	
北海道新幹線で試乗会	国内	
高浜原発3号機が再稼働	国内	
北朝鮮が核実験	海外	三
トルコ、各所で自爆テロ	海外	
台湾総統に蔡英文初的女性	海外	
スターウォーズ應援	海外	三

授業の様子



課題解決場面の工夫

考えの質を高める視点の提示

小学校
国語科編

小学校国語科において、理由を挙げて自分の意見(主張)を発言するように指導すると、「主張と理由が繋がっていない発言になる」「理由を複数挙げているのに内容が重複している」ということはないでしょうか。

小学校第5学年
「資料を生かして考えたことを書こう」
＜宇品東小学校 田村 央子 教諭の実践＞

本実践は「書くこと」の単元において、主張につながる理由を考える際、**視点(理由のカテゴリー)**を示すという工夫を行いました。その結果、児童は主体的に試行錯誤し、理由の内容を吟味するようになりました。

学習課題

給食のメニューをリクエストするために、主張(メニュー)とその理由を示した企画書を作ろう

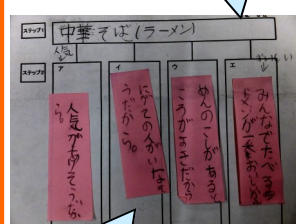


主張(メニュー)を決める

情報収集1

理由の量を増やす

理由を4つも書けたぞ。



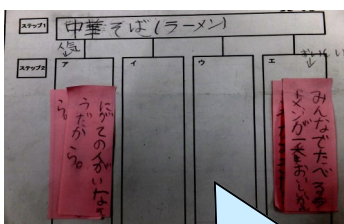
これだけ理由があれば、説得力がありそうだ。

視点による分類

理由のカテゴリーを示し、理由进行分类する

【理由のカテゴリー】

- ① 自分の体験
- ② 他の人の体験
- ③ 現在の事実
- ④ 過去の事実
- ⑤ 本やインターネットなどの二次資料

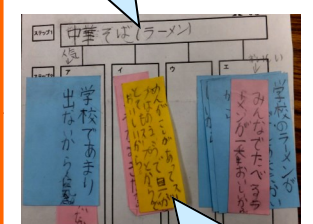


似た内容の理由を書いていたみたい。結局、理由は2つしかなかったんだ。

情報収集2

理由の質を向上させるため、情報収集や理由の吟味を行う

違う内容の理由が増えてきたぞ。



これなら言いたいことと理由が、つながりそうだ。